

平成 26 年 4 月 1 日

生き生きと自分らしさを発揮し未来社会に貢献できる学びを

学長 川合 貞子

本学は 1881 年（明治 14 年）に裁縫を教授できる、智徳の優れた女性教員の育成を旨として、校祖渡邊辰五郎によって創設されました。この裁縫を教授することによって独り立ちすることができ、社会に貢献できる女性の「自主自律」が本学の建学の精神となっています。2014 年に本学は 133 周年を迎えますが、建学の精神をしっかりと受け継ぎ、今日まで多くの卒業生が社会の様々な領域でその実力を発揮し、全国で活躍しています。また、知識・技術の習得と共に、豊かな人間性を培い柔軟な思考力と積極的な実践力を持ち、人としての心の大切さを忘れずに生きる女性の涵養を願った、初期学長青木誠四郎の提唱した生活信条「愛情・勤勉・聡明」は、本学に学ぶ学生の大きな指針となっています。

大学教育においては専門的な知識・技術・技芸の修得はもちろんのことですが、その過程で自ら主体的に課題を見つけ考え、判断し実行する力を身につけることが大切です。そのような力は一人で養えるものではなく、他の人との話し合いや共に力を合わせることを通して培われ、新しい価値を創造し、生きる力、成長し続ける力になります。近年、女性の活躍は目覚ましいものがあり、また社会から寄せられる期待も大きく、活躍の場は国内に止まらず世界に広がっています。多様性に富んだ未来社会が皆さんの行方にはあります。そのような社会にあって、本学では皆さんが女性としての感性と知性を磨き、将来を見据えて意欲的に学ぶことのできる教育環境を整えています。一人ひとりが個性的な課題に取り組む、生き生きと自分らしさを発揮し未来社会に貢献できる礎を築いて欲しいと願い教育を実践しています。建学の精神と生活信条を基盤に、緑豊かな板橋キャンパスと狭山キャンパスで充実した教育、手厚いサポートをしている東京家政大学です。皆さんの目標実現のため、伝統と実績のある本学で共に歩んでまいりましょう。